

地名に込められたもの（第6学年）

奈良市立都跡小学校 山方貴順

（1）ESDを生かした授業づくり

①単元名 「地名に込められたもの」 小学校第6学年

②単元の概要

本実践は、文化遺産である地名に、先人の努力や思い、警告等が込められていることを知ること
で、自分の住んでいる地域の歴史的背景を理解することや、郷土愛を育むことをねらいとしている。

地名は文化遺産である。地名研究の第一人者である池田末則氏は「過去の歴史の検証を試みると
き、考古学では発掘調査によって、その痕跡を求めてきた。ところが、考古学という学問のなかつ
た時代には、地表面に定着した地名が唯一の史料として重視されてきた。『古事記』『日本書紀』『万
葉集』『風土記』などには数多くの地名が記録されている。(略)古代の言葉を研究の対象とする地名
の研究は考古学・民俗学・地理学などと同等の研究価値をもつ貴重な学問とみるべきであろう。」
と述べている。さらに谷川彰英氏は「人の名前に意味があるように、都道府県名にもそれぞれの由
来がある。それをひもといていくことによって、その土地のアイデンティティが見えてくる。」「自
分の生まれ育った都道府県名に愛着を覚え、自信をもって『〇〇県の出身です』といえるようにし
なければならない。今はそうになっていないのが実情だ。」「まず、必要なのは、都道府県名の由来を
知ることだ。自分の都道府県名に理解を持ち、誇りを持てれば、勇気ももらい元気になることがで
きる。」と述べている。研究者達からの言葉から、地名を切り口に学習を進めることで、自分の住
んでいる地域の歴史的背景を理解することや、郷土愛を育むことができると考えた。

筆者の勤務校である奈良市立都跡小学校は、奈良市四条大路5丁目にある。本校から北へ2分程
歩くと、大きな交差点がある。この交差点の名前を、三条大路5丁目という。さらに北へ3分程歩
くと、次は二条大路五という交差点がある。これらは全て、平城京の道が由来となっている。平城
京は条坊制を敷いており、碁盤の目状の町のつくりになっていた。南北を中央に縦断する朱雀大路
があり、この朱雀大路と垂直に交わる道を北から順に一条大路、二条大路、三条大路……と名付け
ていた。1300年前の道の名前が、現在の地名になっているのである。地名の由来を探ることで、
その土地の歴史的背景を明らかにすることができる。

奈良県は、当然ながら、紀伊半島の中央に位置している。しかし、「奈良」とつく地名は、日本
全国に存在する。本州はもとより、北海道にも、四国や九州、沖縄にもある。数にして、100を超
えるだけの「奈良」という地名が、日本全国に存在する。調べると、「奈良」とつく地名は、山の
中や、坂が近くにあることが多いことが分かった。このことについて、谷川彰英氏は「奈良」とい
う地名は、「地名研究によると、『奈良』は土地を『平す（ならす）』『均す（ならす）』からきたと
いう説が強い」と述べている。山がちの土地に住んでいた人々が、農耕をしやすいよう、土地を平
らにしたのであろう。先人の努力や、当時の土地の特徴が、「奈良」という地名に込められてい
ると考えられる。

北海道に「奈良」があることは上述した。北海道にはさらに「鳥取」や「北広島」,「新十津川」といった,他の地域の地名が存在する。これは,明治時代に入植があり,自分の郷土を忘れないようにと,移民が名付けたものである。地名から郷土愛を感じることができる例である。

一方で,地名から先人の警告をも垣間見ることができる。2014年8月,広島県広島市安佐南区八木地区にて土砂崩れが起き,70名以上の尊い命が失われたことは記憶に新しい。「八木」という地名の由来は,山間の狭い小谷を指すことが多いようである。また,土砂崩れの際,最大の避難所となったのは梅林小学校であるが,「梅」の由来は「埋め」を指すことが多いといわれる。八木地区には,関ヶ原の戦いで廃城になるまでの間,八木城が置かれていた。城があった時期の伝説として,武士が山の中腹から下ってくる大蛇を退治したといわれる,蛇落地伝説がある。この大蛇は河川の氾濫を指し,この伝説は治水を表すエピソードであるといわれている。この「蛇落」という語は地名にもなったそうである。昔は蛇が降るような水害が多かったため「悪谷」と名が付き,これが八木蛇落地悪谷,八木上楽地芦谷と改名され,さらに現在は八木だけが残ったという言い伝えもある。このように,地区の統合や,時代とともに地名が変化することで地名は,先人からの警告とともに消失してしまうこともある。

時代の変化だけでなく,経済優先の安易な政策や,商業的なイメージによって,先人の努力や思い,警告が伝わらないこともある。「平成の大合併」によって,市町村の数は3234から,およそ1700にまで減少した。当然,消滅や変更した地名が多く存在する。また,不動産の商業的なイメージを優先し,「希望」や「光」,「緑」と名のつく地名に変更してしまったところも存在する。寺社仏閣や仏像といった目に見えるものは保存がなされているが,文化遺産といえる地名も同様に,後世に「保存」,つまり次代に繋いでいくことが重要であると考え(公平性)。

平成25年に開催された第3回世界遺産学習全国サミットにて,筆者は「現在に残されている地名」という題で,小学6年生道徳の実践発表を行った。自作した資料の概要は「奈良市の地名に興味をもった主人公が,母から地名の由来を伝え聞くことから,文化遺産である地名の由来を自分も次代へ伝える一員であることに気付く」というものである。この資料をもとに,郷土愛を育むことをねらった実践発表であった。この発表において主張したのは「地名は文化遺産であり,どのような学校においても教材や資料として,開発が可能である」という点である(多様性)。筆者の前任校はニュータウンにあり,歴史的な遺産等は全く存在しない校区であった。そのような校区での世界遺産学習として,どのような校区にも存在する地名を切り口にした実践を行った。この道徳実践を本実践に取り入れることで,地名やその由来を次代に繋ごうとする態度(責任性)や郷土愛を育みやすくなる考えた。そのことで,次代を担うことであるという態度をさらに育みやすくなろう。

以上のように,地名には,先人の努力や思い,警告等が込められており,それらにふれることで,地域の歴史的背景の理解や,郷土愛を育むことができると考えた。

③ESDの視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅰ 多様性…どこにでも地名は存在し,その由来には,先人の努力や思い,警告等,様々なこと。

構成概念Ⅳ 公平性…地名やその由来を次代に繋ぐことは,先人の努力や思い,警告等を繋ぐことと同義であること。

構成概念Ⅵ 責任性…地名やその由来を次代に繋ぐことで,次代を担う一員であること。

(2) ESDの視点を生かした授業の実際

①単元の目標（重視する能力・態度）

《参加》地名やその由来を進んで次代に繋ごうとすることで、自分自身がそれらを次代に繋げる一員であるという態度をもつことができる。 【関心・意欲・態度】

《伝達》地名やその由来を次代に繋ぐためにはどうすればよいか思考・判断したことを適切に表現することができる。 【思考・判断・表現】

《情報分析》地名には、先人の努力や思い、警告等が込められていることを資料から読み取ることができる。 【技能】

《地名について》地名には、先人の努力や思い、警告等が込められていることを理解することができる。 【知識・理解】

②評価規準

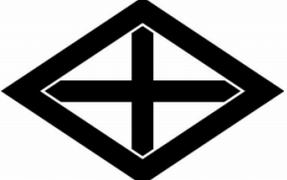
| 参加 関心・意欲・態度 | 伝達 思考・判断・表現 | 情報分析 技能 | 地名について 知識・理解 |
|---|--|---|--------------------------------------|
| ①地名やその由来を進んで次代に繋ごうとしている。 ②自分自身が地名やその由来を次代に繋げる一員であるという態度をもっている。 | ①地名やその由来を次代に繋ぐためにはどうすればよいか思考・判断したことを適切に表現している。 | ①地名には、先人の努力や思い、警告等が込められていることを資料から読み取っている。 | ①地名には、先人の努力や思い、警告等が込められていることを理解している。 |

(3) 単元の概要（全8時間）

| 時 | 主な学習活動と内容 | ◇教師の支援 ◆主な評価 |
|-----------------------------|--|--|
| ① | 1. 奈良県はどこにあるか答える。 2. 「奈良」はどこにあるか答える。 | ◇紀伊半島の中央にある。 ◇奈良県内はもとより、日本全国に100か所以上ある。 |
| どうして日本中に「奈良」があるのだろう。 | | |
| | 3. グーグルアースで、どのような地形か確認する。 4. 「奈良」という地名に込められた思いを考える。 | ◇「京都府南丹市奈良井」「北海道岩見沢市奈良町」「長野県松本市奈良尾」を例として、山間部にあることと、近くに斜面があることに気付かせる。 ◇「奈良」は「平す（ならず）」「均す（ならず）」が由来となることが多いと言われている。生活のために先人が、斜面を平らにしたという思いが込められている。 ◆地名には、先人の努力や思いが込められていることを理解している。《地名について①》 |

| | | |
|---|--|--|
| ② | <p>1. 北海道の地名で、知っているものを挙げ、それらの多くはアイヌ語に由来していることを知る。</p> <p>2. 北海道に「鳥取」「北広島」「新十津川」があることを知る。</p> | <p>◇札幌・函館・小樽・富良野・稚内・利尻・夕張・紋別・苫小牧・千歳といったよく耳にする地名は、アイヌ語が語源となっている。</p> <p>◇グーグルアースを用いて、地形を見るのもよい。しかしこれらの地名は、地形が由来となっているのではない。</p> |
|---|--|--|

なぜ、北海道には他の地域の地名があるのだろう

| | | | |
|---|--|---|--|
| ② | <p>3. 「鳥取」と「北広島」が北海道にある理由を調べる。</p> <p>4. 「新十津川」が北海道にある理由を調べる。</p> <p>5. 奈良県十津川村と、北海道新十津川町の交流を知る。</p> <p>6. 「鳥取」「北広島」「新十津川」3つの地名の由来に共通することを考える。</p> | <p>◇6年生社会科の学習を思い出させながら、明治時代に北海道へ入植が始まったことを調べさせ、移民達は自分の故郷を忘れないために、自分の故郷と同じ地名を使ったことに気付かせる。</p> <p>◇1889（明治22）年の台風被害によって、奈良県十津川村の住民が移住を余儀なくされたことを調べさせ、移民達の故郷を思う気持ちが、同じ村章を作ったこと、さらには新たな土地に「新十津川」という地名をつけさせたことに気付かせる。</p> <p>◇「母村を救え」を合言葉に、2011年の台風12号によって被災した十津川村へ、新十津川町や有志が見舞金／義援金を送ったエピソードを紹介する。</p> <p>◇故郷を忘れまいとする先人の思いに気付かせる。 ◆地名には、先人の努力や思いが込められていることを理解している。《地名について①》</p> | <div data-bbox="1066 846 1412 1198" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p>十津川村の村章 新十津川町の町章</p> </div> |
|---|--|---|--|

| | | |
|---|------------------------------------|--|
| ③ | <p>1. 2014年、広島市で起きた土砂崩れについて知る。</p> | <p>◇写真の提示に加え、以下の点について伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70名以上が亡くなったこと ・台風が原因で発生したこと ・この場所での土砂崩れは過去にも発生したこと ・先人は、災害が2度と起こらないよう、警告を残したこと |
|---|------------------------------------|--|

先人はどのような警告を残したのだろう

| | | |
|---------------------------------------|--|---|
| | <p>2. 広島市安佐南区八木地区の地名やその由来について知る。</p> <p>3. 八木地区の地名に込められた先人の思いを考える。</p> | <p>◇次のエピソードを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「八木」の地名の由来は「山間の狭い小谷」を指すこと ・最大の避難所となった梅林小学校の「梅」の地名の由来は「埋め」であることが多いこと ・八木城が置かれていた頃、武士が山の中腹から下ってくる大蛇を退治したといわれる、蛇落地伝説があるが、この大蛇は河川の反乱で、治水を表すエピソードであると言われていること ・昔は蛇が降るような水害が多かったため、悪谷と名がつき、これが八木蛇落地悪谷、八木上楽地芦谷と改名され、さらに現在は八木だけが残ったという言い伝えがあること <p>◇次のエピソードから、地名には先人の知恵や、次代に繋ぐべき警告が込められている例があることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京の築地は、「土地を築いたこと」が由来であり、先人が埋め立てて作ったこと ・「川」「池」「沼」等の水を連想させる文字が使われている地名は、もともと、水が集まりやすい低地や湿地帯であったケースが多く、軟弱な地盤である可能性があること ・「山」「尾」「根」が使われている地名は、もともと山地であったケースが多く、硬い地盤である可能性が高いこと ・「森」や「林」が使われている地名は、もともと森や林であった可能性が高く、農業に適していること <p>◆地名には、先人の警告が込められていることを資料から読み取っている。《情報分析①》</p> <p>◆地名には、先人の警告が込められていることを理解している。《地名について①》</p> |
| ④ | <p>1. 「平成の大合併」のため、多くの地名が消失したことを知る。</p> | <p>◇次のエピソードを伝えることで、経済を優先させた結果、消滅した地名があることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の数は、3234 から、およそ 1700 まで減少したこと ・良いイメージを優先させるため、地名に「希望」や「光」、「緑」と付けたり、ひらがなやカタカナの地名を作ったりしたこと |
| <p>地名やその由来を繋ぐには、どうすればいいだろう</p> | | |
| | <p>2. 地名やその由来を繋ぐために、自分のできる方法を考える。</p> | <p>例えば、次のような方法が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作成し、校舎内に掲示する ・ポスターを作成し、校区内に掲示する ・中学進学を控え、同一の中学校区の小学校と互いに学校紹介をする際に、発表する。 ・6年生を送る会で、下学年の発表のお返しとして発表する。 |

| | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|--|
| | | ◆地名やその由来を次代に繋ぐためにはどうすればよいかを思考・判断したことを適切に表現している。《伝達》 |
| 道徳 | 道徳資料 「現在に残されている地名」 | ◇第三回世界遺産学習全国サミット実践発表集を参照 ◇郷土を愛する心情を育て、自分も伝統や文化を継承しようとする態度を養うことができるようにする。 |
| ⑤ | 1. 自分の住んでいる都道府県名，市町村名の由来を伝える。 | ◇谷川彰英『都道府県名の由来』東京書籍を参照にされたい。 |
| 自分にとって身近な地名の由来を調べ，まとめよう | | |
| | 2. 自分にとって身近な地名やその由来を調べる。 | ◇身近な地名やその由来を調べることで，地域の歴史的な背景の理解や，郷土愛が深まるようにしたい。 ◆地名やその由来を次代に繋ごうとしている。《参加》 |
| ⑥ | 校区の地名やその由来を発信するため，調べ，まとめよう | |
| ⑦ | | |
| ⑧ | | |

【引用・参考文献】

- 池田末則編 『奈良の地名の由来辞典』 東京堂出版 2008年
 谷川彰英 『「地名」は語る』 祥伝社 2008年
 谷川彰英 『京都奈良「駅名」の謎』 祥伝社 2009年
 谷川彰英 『地名に隠された「東京津波」』 講談社 2012年
 谷川彰英 『地名の魅力』 白水社 2004年
 谷川彰英 『都道府県名の由来』 東京書籍 2010年
 谷川彰英 『奈良 地名の由来を歩く』 ベスト新書 2010年
 山方貴順 「現在に残されている地名」奈良市教育委員会『第三回世界遺産学習全国サミット実践発表集』，2013年，pp.54-57